

# けんれんいばらき

KENREN IBARAKI

2026

3

March



国際協同組合年の取り組み(動画作成)

常総生活協同組合



常総生活協同組合

新春交流会(鹿島アントラーズ、水戸ホーリーホック優勝シャーレ)



「食はいのち、  
いのちを育む食と  
地域環境を大切にする」

## 2-3 Report

### 「2025国際協同組合年」取組報告

4-5 会員紹介 03 常総生活協同組合

6-7 茨城県生協連からのお知らせ

| 主な活動(2025年11月~2026年1月)

| 機関会議報告 | お知らせ・ご案内

SCHEDULE (2月~4月)



国際協同組合年

# 「2025国際協同組合年」取組報告

茨城県生協連は、2025国際協同組合年において、県内の協同組合の関係団体が加盟する協同組合ネットいばらきと共に、協同組合の認知向上と連携強化の取り組みを進めました。「2025国際協同組合年(IYC2025)茨城県実行委員会」設立総会を行い、事業計画策定のため協同組合ネットいばらき加盟7団体(2地域生協、JA、森連、漁連、酪連、県連)で「事務局会」を設置し活動してきました。

中堅・若手職員を中心に積み上げてきたことを大切に、できることでつながる「あいのり」精神を柱にして4つの事業方針と計画を立て、各関係団体と連携して取り組みました。

## (1) 協同組合に対する理解を促進し、認知度を高めること

・若い世代に向けたアピール

- ① 協同組合PR動画作成
- ② 協同組合が取り組む学習プログラム提供

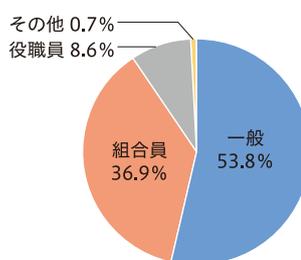


本編  
QRコード

・全ての世代を対象にしたアピール

- ③ 協同組合クイズキャンペーン企画
- ④ パブリシティの活用

【回答者カテゴリ】



■一般:1181名 ■組合員:810名 ■役職員:190名 ■その他:16名



協同組合の取り組む学習プログラム作成に6団体が協力し、教育委員会へ提供して県内の小中学校に配布のお願いをしました。協同組合PR動画は、外部はもとより関係団体の役職員にも視聴をすすめてもらい、他の協同組合を知る機会に活用をしてもらいました。協同組合クイズキャンペーンでは延べ参加者2,171名。一般参加者が54%、役職員が46%でした。

## (2) 協同組合間の連携を一層進めること

- ① 協同組合フェスティバル併催(ネットいばらき会員主催イベントあいのり)
- ② ネットいばらき会員間の役職員・組合員交流会
- ③ 情報共有 各会員向け定期ニュースの発行



協同組合間連携では、フェスティバル併催として会員団体が主催するイベントに参加希望する会員団体を繋ぎ、出店をして各協同組合をアピールしてもらいました。特にいばらきコープフェスタでは会員12団体がブース出店を行いました。役職員交流は、茨城沿海地区漁連と大洗町漁業協同組合に協力いただき、IYC2025記念交流会(釣り大会)を開催しました。25名が参加、し異なる協同組合の役職員による交流を図るとともに県内水産業への理解を深める機会となりました。

### (3) 協同組合やそれ以外の協同の輪を広げ、地域課題へ向き合うこと

- ① 協同組合ネットいばらき会員団体の拡充異種業種団体
- ② 協同組合ネットいばらき既存の取り組みの発展
- ③ 困窮世帯・学生への食の支援活動

協同組合ネットいばらきに新たに2団体(茨城県社会福祉協議会、JA茨城スタッフサービス)が加盟し広がりました。食の支援では、夏・冬の2回実施し、米・野菜・食品・飲料・菓子など約4トン、寄付金63万、ボランティア21名と計53団体が協力し、フードバンクと連携して計947世帯を支援しました。



### (4) SDGsの実現に向けた協同組合の実践を深め、広めること

- ① 協同組合学習会(茨城県社会福祉協議会「地域社会の課題を学ぶ」)の開催
- ② 各会員団体での取り組み(国際協同組合年の広報、環境、平和活動など)



### JA茨城県中央会と茨城県生協連による連携協定



2025国際協同組合年の取り組みを通してこれを契機に、お互いの組合員や従業員の交流会をつくり、協同組合間連携の促進につなげ、安心してらせる地域社会をともに実現することを目的に、JA茨城県中央会と茨城県生協連で協同組合間連携の促進に関する協定を締結しました。

多様な課題が重なる社会において、協同組合組織に求められる役割と期待は組織内外から高まっており、国連は10年ごとに国際協同組合年とすることを決めました。多種多様な事業・活動を展開する協同組合は、専門的知識とノウハウ、経験を豊富に持っています。共通する課題を理解し、コミュニケーションを通して相互理解を深め続け、良い取り組みがあれば組織の垣根を越えてゆるく連携し一緒にやってみる機会を大切に、協同組合同士の新たな可能性を創造し追求していきます。



組合員活動の様子(みそ用の地場大豆の脱穀)

## 「食はいのち」、「いのちを育む食と地域環境を大切にすること」を理念に

茨城県南西部に位置し、利根川を挟み千葉県と隣接する地域で活動している常総生活協同組合。昨年設立50周年を迎え、食の安心・安全を前提に、地産地消や産地・生産者への思い、手作りの推奨などを通して、いのちを育む食と地域環境を大切にしています。

### 団地自治会のお母さんたちの家族の食への思いがかたちに

昭和30～40年代にかけての高度経済成長期に全国に建設されていた団地。取手駅から常磐線一本で都心へアクセスできることから、取手市井野団地には東京から移り住む方も多かったそうです。自然の多い環境で子育てをしたいという思いもあったのでしょう。

団地の建設に伴い、近隣にはスーパーなどもできました。しかし、野菜の鮮度は良いものではなかったようです。「周りにこんなに畑が広がっているのにどうして？」家族に質の良い食事を作ってあげたいお母さんたちは疑問を感じました。当時は、茨城県産の野菜でも、一度東京の中央市場

まで運ばれて、買い付けで戻ってきたものが店頭で並ぶのが一般的だった様です。ならば、近隣の農家さんの野菜を直接仕入れて分け合おうと発足したのが常総生活協同組合の前身となる「あけぼの会」の青空市でした。同年には「取手生協」へと発展していきます。

### 飲み水や環境への配慮から環境問題を訴える活動へ

1980年代には、化学的に合成された合成洗剤が使われるようになってきました。食の安全を考えてきた組合員にとって、飲み水は大変重要です。合成洗剤が川や海に流れて、浄水場を経るとは言え、それをまた自分や家族が飲むことに疑問を持ち始めました。合成洗剤ではなく、昔ながらの生分解

性の良い石鹸の使用を促進する活動も盛んになりました。

### 核や遺伝子組み換え作物と食の安全への取り組み

1986年のチェルノブイリ原発事故、1997年の東海再処理施設事故、1999年の東海村JCO臨界事故による放射性プルームによって、核に脅かされる環境や食の安全について考えてきました。2011年、東日本大震災に伴う福島第一原発事故の際には、被災地支援と並行して、母乳・作物・土壌・牧草の放射能汚染調査を開始。甲状腺検査もいち早く地域の市民との協力で実施しました。被ばくによる健康影響は時間が経ってから出てくるため、現在も、近隣県で子どもたちの健康を見守る活動を続けています。



常総50周年まつり(ウェルネスプラザ/取手市)



ゲルマニウム半導体検出器(放射能測定器)



和棉の商品

2012年にはゲルマニウム放射能検査機を導入しました。これによって地場産品の精密な独自検査が可能となりました。自分たちの目で食べ物の安全を確かめて組合員へ届けることが大事だと考えています。

また、近隣の生産者と協力し地元の大豆を使った味噌づくりを続けていますが、ある時、近隣地域で遺伝子組み換え大豆の栽培が行われていることが分かりました。大豆は花粉で交配しますから、組合員と生産者は不安を覚えました。当時はまだ遺伝子組み換え作物の栽培についてのルールが整っていませんでした。そのため茨城県議会に請願書を提出し、ガイドラインを作ってもらおうよう訴えた結果、農

林水産省にて実験栽培手続き法制化に至った経緯があります。私たちがなにより食の安全を追い求めてきた成果とも言えるでしょう。

### 手作りで安全で経済的な生活を提案する活動

味噌やらっきょう漬、梅干し作りなど季節の手仕事や手作りの食卓を推奨していましたが、ライフスタイルの変化により素材から全て手作りするの難しい時代です。安心な材料で作られた半調理品に野菜を加えるなど、各家庭で工夫しながら我が家の味にすることで、作る側も食べる側も満たされ、引いては経済性にもつながると考えます。因みに組合員の1割強

が毎年仕込む手作り味噌も、「大豆を煮るのが大変で…」の声に応じて、大豆を蒸して冷凍させた「冷凍蒸し大豆」を開発。毎年味噌づくりの時期には大活躍です。

組合員活動の一つである「和棉プロジェクト」では、生協敷地内の畑で希少な和棉を無農薬で育てています。以前は、加工を外部委託していましたが、自分たちで手作りする第一歩として、糸紡ぎ講習会を開催しました。

最近では多くの組合員が仕事を持ち、組合員活動に時間をさける方越来越少なくなってきました。3世代に渡る生協として、時代に合わせた、リモートやSNSなどを活用しての交流の仕方を模索しています。



厳選した食材を伝える

## Profile



ひろし  
柿崎 洋

常総生活協同組合  
専務理事(代表理事)



藤原 弥生

常総生活協同組合  
副理事長

### 常総生活協同組合

【設立】1975年9月12日

【組合員数】5,781名(2024年度末現在)

【出資金】3億3656万7千円(2024年度期末実績)

〒302-0109 茨城県守谷市本町281番地

TEL:0297-48-4911

FAX:0297-45-6675

<https://www.coop-joso.jp/>

# 茨城県生協連からのお知らせ INFORMATION

## 主な活動 (2025年11月～2026年1月)



11.4 (火)

**シルバーリハビリ体操体験学習会**  
いばらきまるごと健康づくり2025健康チャレンジ企画として、茨城県JA中央会の会場で開催。



11.8 (土)

**「どきどき収穫祭2025」に出店**  
協同組合クイズブースとして出店。JA全農いばらき・いばらきコープ共催。



11.19 (水)

**定期懇談会**  
茨城県生協連と茨城県生活文化課と定期懇談会を開催。



11.27 (木)

**立憲民主党との意見交換会**  
小沼巧議員、玉造順一議員、森智世子議員出席のもと、鶴長会長理事、井坂専務理事と。



12.6 (土)

**「いばらきコープフェスタ2025」に出店**  
いばらきまもりあいプロジェクト(行方不明者検索アプリ普及)の取り組みとして。



12.4 (木)～15 (月)

**「いばらき消費生活展2025」に出展**  
いばらきコープ生活協同組合、生活協同組合パールシステム茨城 栃木、生活クラブ生活協同組合、茨城県生活学校連絡会が参加。



2025年冬

**子ども応援プロジェクト・学生食の支援**  
フードバンク茨城、茨城県生協連、協同組合ネットいばらきを中心となり、食と心の絆をお届け。



12.13 (土)・21 (日)

**ユニセフ ハンドインハンド募金**  
貧困に苦しむ世界の子ども達へワクチン接種や生活環境改善に向けた支援の呼びかけを実施。



12.26 (金)

**JA茨城県中央会協同組合と協定締結**  
茨城県生協連とJA茨城県中央会協同組合間連携促進に関する協定を締結。



1.8 (木)

**2026年 新春交流会**  
当日は、257名(国会議員14名、県議会議員40名、市町村長20名、行政9名、友誼団体88名、会員生協86名)が出席。



1.16 (金)

**災害時要配慮者向け炊き出し体験ワークショップに参加**  
赤十字社茨城県支部主催。



今回の交流会では茨城県内のプロスポーツ団体を代表し、株式会社鹿島アントラーズ様、株式会社水戸ホーリーホック様、株式会社茨城ロボッツ・スポーツエンターテイメント様をご臨席。会場内に「J1優勝シャレ」、「J2優勝シャレ」をお持ちいただき、参加者から大変好評でした。



1.20 (火)

**第75回茨城県社会福祉大会**  
感謝状(地域福祉の向上に寄与された功績)を受領。

## 機関会議報告

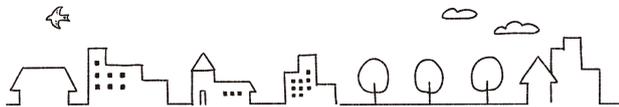
### ■2025年度 第4回理事会

開催日時：2025年11月19日(水)14時50分～15時50分  
開催場所：茨城県JA本館 4階 第一会議室  
出席：理事13名、監事3名、オブザーバー2名、事務局1名

議事の結果：

#### 【議決事項】

- (1)2026年1月8日新春交流会開催概要の件について提案し承認。
- (2)協同組合(JA・生協)の施設相互利用の件について提案し承認。
- (3)2025年度上半期活動のまとめと下半期課題(案)の件について提案し承認。



### ■2025年度 第5回理事会

開催日時：2026年1月8日(木)12時15分～12時45分  
開催場所：ホテル・ザ・ウエストヒルズ水戸 吐玉  
出席：理事13名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名

議事の結果：

#### 【議決事項】

- (1)茨城県生協連第54回通常総会開催の件について提案し承認。
- (2)2026年度役員定数及び役員選任に関する公告の件について提案し承認。
- (3)役員推薦委員会設置及び役員推薦委員選出の件について提案し承認。
- (4)2026年度茨城県生協連会費(1次)の件について提案し承認。
- (5)2026年度茨城県生協連主要日程(1次)の件について提案し承認。

## お知らせ・ご案内

### 01 2026年ピースアクションinいばらき春 ～戦争の足跡、 見て聞いて考えよう～

- 開催日時 4月12日(日) 10:00～12:00
- 開催会場 予科練平和祈念館・雄翔館見学  
(茨城県稲敷郡阿見町大字廻戸5-1)
- 申し込み 3月20日(金)まで

QRコードより  
申込みください



〈詳しくは〉茨城県生活協同組合連合会  
電話(029-226-8487)にお問合せください。



### 02 ユニセフ講演会「ルワンダの教育現場から」

- 開催日時 6月20日(土) 14:00～16:00
- 開催会場 水戸市赤塚 ミオス大研修室
- 講師 永遠瑠(とわり)マリールイズ
- 主催 茨城県ユニセフ協会

QRコードより申込みください



〈詳しくは〉茨城県ユニセフ協会  
電話(029-224-3020)にお問合せください。



永遠瑠マリールイズさん

# SCHEDULE

2026.02-04

茨城県生協連  
主な行事予定



2月

feb

- 2日(月) ●ピースアクション実行委員会  
組員活動責任者会議  
●MCA無線訓練第2回全体会
- 18日(水) ●第4回3役会
- 25日(水) ●第2回 組員活動交流会 実行委員会
- 28日(土) ●日生協ピースアクションキックオフ集会

3月

mar

- 2日(月) ●ピースアクション実行委員会  
組員活動責任者会議
- 18日(水) ●第6理事会
- 25日(水) ●日生協 地区別・議案検討委員会  
●中央地連 地連運営委員会
- 27日(金) ●職域委員会
- 30日(月) ●組員活動交流会開催

4月

apr

- 1日(水) ●MCA無線訓練
- 6日(月) ●ピースアクション実行委員会  
組員活動責任者会議
- 12日(日) ●2026ピースアクションinいばらき春
- 15日(水) ●第5回3役会
- 25日(土) ●日本生協連中央地連運営委員会  
県連活動推進会議



## 1月から3月は「若者向け悪質商法被害防止共同キャンペーン」期間です!

茨城県

茨城県では、悪質商法による若者の被害を未然に防止するため、1月から3月を「若者向け悪質商法被害防止共同キャンペーン」期間と定め、関東甲信越の都県・政令指定都市の消費生活センター、国民生活センター、県内市町村及び関係機関と協力して啓発活動を実施します。



### 若者に関する相談事例とアドバイス

**事例①** 子どもが保護者の知らない間にオンラインゲームで高額課金をしていた。

**【アドバイス】** 子どもによる保護者の意図しないインターネット利用を防ぐためには、事業者が設けているペアレンタルコントロールやフィルタリング機能を活用し、必要な範囲で子どものインターネット利用に制限をかけることが有効です。

**事例②** 友人に誘われ投資用教材を契約したが、契約代金に充てるため消費者金融を利用した。返済も困難なので解約したい。

**【アドバイス】** 契約代金を支払うために消費者金融等で借金を迫られるケースがあります。断るときは契約の意思がないことをはっきり伝えましょう。自分の支払い能力を超えた借金は、これからの生活を脅かします。借金をしてまで安易に契約しないでください。

消費者トラブルのご相談は

消費者ホットライン **188** (いやや!)へ!

お近くの消費生活相談窓口、又は国民生活センターをご案内します。

茨城県消費生活センターホームページは

いばらき消費生活ナビ 検索



茨城県

\*\*\* 茨城県から交通安全についてのご案内 \*\*\*

## 2026年4月1日から 自転車の交通違反に「青切符」を導入!

道路交通法の改正により、2026年4月1日から、自転車の交通違反に交通反則通告制度(通称:青切符)が導入されます。青切符とは、一定の交通違反をした場合、反則金を納めれば刑事手続きに移行せず、事件が終結される(いわゆる「前科」もつかない)という制度で、16歳以上の運転者が対象です。

一方、飲酒運転や妨害運転等、重大な違反や事故を起こしたときは、これまでと同様に赤切符等が適用され刑事手続きに移行します。なお、自転車の基本的な交通ルールはこれまでと変わりません。

### 〈青切符の対象となる違反の例〉

反則行為	反則金
携帯電話使用等(ながらスマホ)	12,000円
遮断踏切立入り	7,000円
信号無視	6,000円
指定場所一時不停止等	5,000円
自転車制動装置不良(ブレーキなし・故障)	5,000円
無灯火	5,000円



### 自転車安全利用五則

- 1 ▶ 車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- 2 ▶ 交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- 3 ▶ 夜間はライトを点灯
- 4 ▶ 飲酒運転は禁止
- 5 ▶ ヘルメットを着用

※警察庁の自転車ルールブックについてはこちら



問合せ先:茨城県県民生活環境部生活文化課  
安全なまちづくり推進室 029-301-2842

発行

茨城県生活協同組合連合会

〒310-0022 茨城県水戸市梅香1-5-5 茨城県JA会館分館5階 TEL 029-226-8487 FAX 029-224-1842

URL <http://www.ibaraki-kenren.coop/index.html> E-mail [ibkenren@ibaraki-kenren.coop](mailto:ibkenren@ibaraki-kenren.coop)